

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「共に歩む」を基に事業所と個人がそれぞれに目標を立て取り組んでいます。また、見やすい所に掲示、朝の申し送り時等に唱和し、意識を持って業務にあたっています。	法人理念を活動の基軸とし、毎年4月、全職員で話し合いホーム独自の目標を決め取り組んでいる。本年度も「介護は心、原点に立ち返り、心のこもった接遇及び支援を行う」を含む4項目を設定し取り組んでいる。理念やコンセプトについては毎朝朝礼にて唱和し意識を高めている。また、全職員心を一つにして同じ考えで支援に取り組むよう管理者が細かく話をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様の高齢化に伴い、地域の催しものなどへの参加は難しくなっていますが、地区の子供みこしの立ち寄りや、神社の寄付なども心がけています。地区の防災訓練にも参加しています。	事業所として区費を払い活動している。区長との関係も良好で様々な話を気軽にさせていただいている。回覧板も回していただき地域の情報を得ている。エコウォーク、防災訓練、文化祭等にも参加し地域の一員として活動している。地域の福祉専門学校生の来訪も定期的であり、利用者との交流の場が継続されている。また、本年度は職員の子供さんの紹介で信州大学吹奏楽部の来訪が8月の家族会、9月の敬老会と2回あり、迫力のある演奏を楽しみ利用者も喜んだという。その他、そば打ち、蛇味線等、多くボランティアの来訪があり交流の場が持たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、地域の方々や認知症に関する話し合いの場への参加の希望を伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ご利用者様の状況・活動等写真入りの資料で分かりやすく説明。出席者から意見・要望をいただきサービス向上に努めています。	家族代表、区長、民生委員、市長寿課職員、介護専門学校講師、ホーム職員の参加で2ヶ月1回参加者の都合に合わせて実施している。有意義な会議が行われており、利用者の状況やホームの近況報告の後、意見、要望等をいただき、ホームの運営や活動に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報提供・取り組みの報告をしています。市の介護相談員の訪談も年4回ほどあり、意見を伺い情報交換しています。	利用者に関する事等、様々な相談をしている。介護認定更新調査は調査員が来訪し家族立会いの上実施している。介護相談員の来訪は3ヶ月に1回2名ずつあり、利用者とのふれあいの機会が持たれている。介護相談員も気になることがあれば即口頭で話してくれ、全体的なことは後日書で報告されている。市主催の研修会には積極的に参加するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	意識を常に持ちケアを実践しています。しかしリスクの高い個所は施錠をすることもあります。施設内の委員の下、研修を行いマニュアル化し理解を深めています。	身体拘束や虐待防止についてホーム内の委員会で研修会を実施し徹底を図っている。職員は身体拘束をしないケアに心掛け施設傾向の強い利用者に対してはユニット間の中庭を散歩したり花を眺めたりして対応している。玄関は安全確保のため施錠しているが、家族等にも説明し納得をいただいている。	

グループホームさとび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の全体会議に於いて待遇委員の下、話し合いを行い、なおかつ一人一人が意識を持ち防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見人制度」を理解し学ぶ機会を持っています。また、パンフレット等の閲覧・回覧にて活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類の提示を行い十分な時間をかけての説明の上、ご理解をいただいております。また、不安や疑問点等の質問しやすい場所・雰囲気づくりを心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、ご意見・ご要望をお聞きしたりアンケートにもご協力いただいています。ご意見・ご要望は職員に周知し、対応しています。	家族の来訪は毎週の家族から年2~3回の家族までいるが全家族来訪されている。来訪された際には明るく笑顔で挨拶するよう心掛け、気軽に話ができるようにしている。家族会を年2回、8月の夏祭りと10月のぶどう狩り時に開催し多くの家族が参加され好評であった。2ヶ月に1回さとび便りを発行し、個々の状況報告書も毎月請求書に同封し家族にお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見交換を行っています。各棟の毎日のミーティングや大きな提案は毎月の全体会議で素早い対応を心掛けています。	月1回全体会議とユニット会議を開催し、連絡事項の後、職員の負担軽減についての業務改善等話合っている。毎日行われる午後のユニットミーティングは十分な時間を取り、利用者が気持ち良く過ごすための対応について話し合いを重ねケアに取り組んでいる。職員は半年に1回目標設定を行い、同時に自己評価と管理者による個人面談も行われ、振り返りや提案を行い支援の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況・やりがい・個人目標・接遇チェック表等で把握し、意欲向上に繋がるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に活用していません。研修参加への促しを行い、勤務調整の下参加しています。		

グループホームさとし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム会議への参加を行い、日ごらの活動報告・勉強会等でサービス向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お話を伺い、内容に沿ったサービス提供に努めています。傾聴し、ご本人を知ることから始めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	切々と訴えるご家族の想いを、しっかりと受け止めさせていただいております。その上で、ご家族の安心感・信頼感に応えたい思いです。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査での資料を参考にし、ご本人・ご家族の意見を重視。沿ったサービス計画を作成し実施しています。また、他のサービスの紹介・必要性についてもお話しする機会を設けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過ごされてきた暮らし・環境を理解し、尊厳を持って対応しています。コミュニケーションの取れる話題やレクリエーション等の提供で良い関係づくりを築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「ご家族だからできる事」「施設だからできる事」を共有し、共に支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の訪問・電話・手紙等繋がりが多く、継続しています。良い関係が途切れることのないよう配慮・支援しています。	自宅近所の方と「絵手紙」で文通をしている利用者がいる。また、知人より電話が掛ってくる利用者もおり職員が取り次ぎ関係性を継続している。馴染みの美容院へ家族と一緒にいられる利用者も四分の一ほどおり、更に、毎週末に娘さんと外泊を楽しまれる利用者もいる。広々としたホールでは利用者同士が会話を楽しみテレビを見ている姿も見られた。	

グループホームさとしび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の一人一人またはご利用者様同士の関係を把握し、時には中間に立つ関わり、橋渡しを行いながら支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、希望される方には相談や支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限りご希望・ご意向に沿えるよう支援しています。表現の不可能な方には毎日のコミュニケーションの中で感じ取り、笑顔や行動から把握できるよう努めています。	高齢化に伴い年々意思表示の出来る利用者が減りつつある。そのような中、職員は利用者が訴えようとしていることを出来るだけ汲み取り、行動を起こす前には必ず声掛けを行うようにしている。年に1度の誕生日を最も大事な「主役の日」と捉え、必ず誕生日当日に本人の希望に沿った誕生会を実施しお祝いするようにしているため家族にも喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族からの情報を基にミーティングを行い、暮らしの把握をし、職員間の共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日朝礼の時・昼休みに情報交換の場をつくり、現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族からの意思・意向をお聞きし、医師や看護師の意見・アイデアを反映。現状に即したサービス計画づくりをしています。	職員全員が利用者全員の状況を掴むようにしている。家族の「穏やかに過ごしてほしい」という希望も踏まえつつ、毎日の午後のミーティングで個々の状況についてアセスメントを行い、通常は6ヶ月に1回見直しをし、変化のある方や心身の状況低下が急な方については即見直しを掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・気づき等カードexへの記録、業務日誌への記載を通して申し送りをし共有。統一ケアを目指し、対策・モニタリング・評価へとつなげています。		

グループホームさとし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に合わせて、ニーズに見合ったサービスの提供に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進委員や市の相談員の訪問を受け、情報交換を行っています。ご利用者様との会話の場の提供も行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の説明をし、同意を得ていますが、これまでの医療機関での受診を希望される場合はご家族で受診していただける様支援しています。	ほぼ80%の利用者は協力医をかかりつけ医としており、月1回の往診を受けている。数名の利用者が入居前からの主治医の対応で家族が受診にお連れしている。訪問看護師の来訪が週1回あり健康チェックと相談に乗り24時間の対応となっている。歯科医については家族の希望を取り入れ毎週月曜日の往診で対応し、口腔ケアに取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問時、あるいは電話等で気づいた点を報告・相談し、アドバイスや処置により健康管理を行っています。気づきや変化への対応は素早く情報交換しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人グループの医療関係者・あるいは他医療関係者とは情報交換や連絡を密にしています。病院に訪問して直に情報交換の場も作っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意志を尊重し、医師・看護師との相談を重ね方針を決めています。ここでの生活が一日でも長く、安楽に過ごしていただけるよう支援しています。	重度化した場合の対応指針を利用契約時に説明し家族の希望も聞き、看取り介護の同意書を頂き取り組んでいる。本年6月、7月に3名の利用者の看取りを行った。訪問看護師や主治医との連携を取りながら行い家族からも感謝をされた。緊急対応についても管理者からの的確な指示に従い意思統一が図られ、動揺しない安心での対応にも配慮し、的確な看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを完備しました。救命救急の講習参加、施設内での研修等職員全員で取り組んでいます。		

グループホームさとし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署のご協力での総合訓練を年2回。地震想定訓練・緊急連絡網訓練等、ミニ訓練を交え毎月取り組んでいます。運営推進会議の際、AED・非常食の備蓄等の報告や、訓練への参加依頼等しております。	総合防災訓練を消防署の協力を得て年2回実施している。夜間想定、伝言ダイヤル等も取り入れ、利用者も外まで避難している。法人内には元消防署経験者が防災担当として勤務し、法人各施設の指導に当たっており防災意識も高い。ミニ防災訓練が毎月実施され、「避難方法」や「AEDの使用法」などの徹底を図っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、プライバシーに配慮する対応を心掛けています。自己チェック表を用いての自己の振り返り、言葉遣い・挨拶等職員同士でも注意し合える環境作りをしています。	プライバシーの保護、尊厳の保持について利用契約時に話をし理解を得ている。年2回行われる、法人の危機管理室による出向研修においてプライバシー保護や情報管理、振り込め詐欺等の対応方法について周知を図っている。また、接遇の自己チェックを行い、言葉遣いや挨拶等、気持ち良く支援に取り組めるよう全員で意識を高め取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	投げかけた質問に答えていただくだけでなく、日常会話やコミュニケーションの中でも、思いや希望の拾い出しをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人がマイペースで過ごしていただけるよう声掛けをし、無理強いせず今日の日程を話したりしています。また、合わせて頂きたいときは理解していただけるよう説明させていただきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選んだり着脱できる方はお任せし、困難な方にはご家族に用意して頂いたものを説明しながら更衣の支援をしています。最後のチェックはさせていただきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事の準備や片付けは難しくなりました。コンセプトにのっとり希望をお聞きし、行事食や誕生日食を取り入れています。全員が揃って食事の時間だと分かって食卓を囲めるよう、お揃いのエプロンの着用します。	半数の方が一部介助で全介助の方もいる。食形態はキザミと一口大の方が殆どである。職員も食べることの大切さを感じており、一日の食事の中に必ず魚と肉が入るようにしている。また、職員と一緒に楽しく食事をしている姿が印象的で、利用者も安心している様子であった。正月や家族会、誕生日、夏祭り等には特別食を用意して楽しんでいる。家族、職員、近所の方からの差し入れに併せ、中庭の家庭菜園で栽培したトマト、西瓜、カボチャ等も献立の一部となり皆で楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師、栄養士からアドバイスを頂いたり、水分摂取も麦茶ゼリーや好みの飲み物等に工夫をし、上手に摂取されています。車いす用の体重計も完備し体重管理もできています。		

グループホームさとび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個別の口腔ケアをしています。状態により、介助法や適切な歯ブラシ、スポンジ等で徹底して行います。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車いすのご利用者様が現在は6名。そんな中でトイレでの自立排泄は難しい方も、尿意・便意のある方は勿論、意志の無い方の表情や動きを見落とさないよう状況把握を統一しています。	殆どの方が一部介助と全介助であり、また、リハビリパンツとオムツ使用である。排泄チェック表でパターンを掴み基本的には朝、昼、晩の3回声掛けをし、後は状況に応じて声掛けし対応している。清潔に力を入れ交換時には出来るだけ全てを交換し、利用者に気持ち良く過ごしていただくようにしている。開設13年目を迎えた当ホームであるが清潔感があり匂いが感じられなかった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールに全員で取り組んでいます。食事・水分・服薬と、職員間や医師・ナースとの連携も含めて毎日チェックしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調やタイミングに留意し、声掛けや誘導に気を付けています。入ってしまえば「気持ちいい。」と喜ばれるのですが浴室までの誘導に気を使います。週2回を心掛けていますが、無理強いはしていません。	基本的には週2回入浴している。全介助の方が三分の一、一部介助の型が三分の二という状況である。入浴拒否の方も若干名いるが言葉を変え、人を変え対応している。全介助の利用者に対しては2~3名の職員で工夫をしながら入浴介助を行い、気持ち良く過ごしていただけるように心掛けている。季節によって「ゆず湯」や「菖蒲湯」等で楽しく入浴できるよう演出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由な場所で休まれています。居室で、ソファで、テーブルで。一人で休みたい方。一人だとさみしい方。それぞれに合わせて見守らせていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量の理解と内服確認を徹底しています。変更があれば素早い周知の徹底を図ります。また日常の変化は医師へ報告をし指示に従います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の情報を基に興味のありそうなことへのお誘い、会話、散歩など声掛けをし、楽しんでいただいています。できる事への参加を呼びかけ積極的に取り組んでいます。		

グループホームさとび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事が盛りだくさんです。ご家族会も兼ての「ぶどう狩り」、桜や紅葉のドライブ、外食ツアー、また、お誕生日のご希望での外出。車いすが増え、車の手配や、職員の配置にシックハックしながら、ご利用者様の笑顔が頂きたくて企画します。ご家族も協力的です。	自力歩行の方が数名、歩行器の方がほぼ半数、車イスの方が三分の一という現況である。天気の良い日には玄関前の駐車場に出て北アルプスの山々を見たり田畑の様子を見て楽しんでいる。また、ユニット間の中庭には畑があり、散歩コースやイステーブルの寛ぎスペースとして整備されているので日々外気浴が楽しめる。春のお花見や秋の紅葉狩り、外食会などには法人の大型キャラバン3台を借用し、利用者や職員全員で外出し家族にも喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設側での管理です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望に添い、対応させていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節を感じていただけるような花を飾り、新聞、TV、冊子など置き、自由に過ごしていただけるよう工夫をしています。湿度や温度調節も欠かしません。	茜、東雲両ユニットはそれぞれ広く天井も高く開放感があり、利用者の集うホールも窓が広く明るさと温かさが感じられる。掲示板にはホーム便りと外出時の写真が飾られホームの活動が見て取れる。浴室、トイレも整理整頓が行き届き、清潔感が漂い、開設13年目を感じさせない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー・テーブル・TV等の配置に気を配り、日常の生活を見ながら、居場所の声掛けや誘導を心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれですが、その方の状態に合った工夫をしています。転倒・収集・こだわり等もあるので、ご本人やご家族と話をさせていただいてリスク軽減な居室にさせていただいています。	各居室には洗面台や大きなクローゼット、ベットなどが備え付けられ、空調はエアコンで行い快適である。家族の写真、折り紙、絵手紙等が飾られ、思い思いの生活を送っていることが見て取れる。居室の入り口には利用者の名前と花の名前のプレートが付けられており柔らかな印象を受けた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備に心掛け、「できる事」「わかる事」が維持できるよう居室のお名前やトイレの場所がわかる工夫をしています。		